

令和6年12月定例会 人材育成・文化・スポーツ振興特別委員会の概要

日時 令和6年12月18日(水) 開会 午前10時  
閉会 午前11時37分

場所 第1委員会室

出席委員 細田善則委員長  
内沼博史副委員長、  
鈴木まさひろ委員、柿沼貴志委員、千葉達也委員、岡地優委員、  
小川真一郎委員、鈴木正人委員、泉津井京子委員、町田皇介委員、  
権守幸男委員、金野桃子委員、松下昌代委員

説明者 [県民生活部]  
島田繁県民生活部長、大熊聡県民スポーツ文化局長、  
高野正規スポーツ振興課長、岸幹夫スポーツ振興課スポーツ施設整備推進幹

会議に付した事件  
スポーツの振興について

### 鈴木（ま）委員

- 1 県はeスポーツの普及に努められているが、現在の普及状況についてどのように評価しておられるか伺います。
- 2 今年の体験イベントの成果や今後の方針についてもお聞かせいただきたい。
- 3 eスポーツは身体的制約が少ないことから、高齢者や障害者も参加しやすい特徴があると思うが、こうした方々へ向けた普及支援策についてもお聞かせいただきたい。
- 4 アスリート発掘・育成・強化についてであるが、一貫したサポート体制の整備というふうに記載があるが、具体的にどのような成果が出ているか伺う。
- 5 支援について、地域間の格差が生じないよう配慮がなされているか伺う。
- 6 県は、WEリーグの機運醸成に取り組んでおられるが、現状の課題と解決に向けた今後の取組についてお聞かせいただきたい。
- 7 パラスポーツ、デフスポーツの普及や裾野拡大には、学校教育や地域イベントなどあらゆる機会を生かして、体験機会の拡充を図ることが重要と考えるが、見解を伺う。
- 8 ボランティアの参加促進に向けた現状と課題についてである。こちらは継続的な関与も促進するための取組などあれば詳細をお聞かせいただきたい。

### スポーツ振興課長

- 1 県の方の、令和6年の県政サポーターアンケートについて、スポーツに関心があるとお答えいただいた方は、25.1%という状況である。このうち実際にプレーをされている方というのは、5.8%という結果になっている。県民4人に一人の方が関心があるという状況であるので、まだまだ普及を進める余地は大きいというふうに考えている。
- 2 まだ今年度は体験イベントを行ってないので、ちょっと昨年度の実績で御報告したいと思う。昨年度は、イオンのレイクタウンとアズ熊谷の2会場で、オンラインでつないでスポーツイベントの実施をさせていただいた。その際、来場者、オンライン視聴者合わせて約30,000人の方々に、eスポーツの魅力に触れていただくことができた。そして今年度は、その実績、それから反省というか、発展させて、昨年度よりも会場数を増やして、三つの会場をつないで、もっと多くの方々に参加いただけるような工夫をしたいというふうに思っている。
- 3 実際、県内市町村でも、eスポーツの活用が広がってきており、入間市や富士見市などでも、高齢者をはじめとしたスポーツイベントが開催されている。そして、県でも、令和8年度に開催されるねんりんピックにおいて、eスポーツのオリジナルイベントとして実施予定である。このため、やはり高齢者向けのeスポーツ活用の機運は、非常に高まっているというふうに考えている。このように、eスポーツの持つ様々な可能性を広げる中で、市町村等もこういう動きが出てきたので、我々としても、今後その他の市町村や民間事例に好事例をしっかりと紹介、周知して、横展開をしていきたいというふうに考えている。
- 4 具体的な成果として、プラチナキッズは平成23年度から始めさせていただいているが、実績として、今年度国際大会に14名及び26人の卒業生が、プラチナキッズ、プラチナジュニアの卒業生が出演して、9名、16件で入賞を果たした次第である。このように、地道なプラチナキッズ、ジュニアの活動によって、国際大会で入賞する人間を輩出することができたということが成果として考えている。すみません、先ほど申し上げた、私の方は卒業生と申したが、認定した者という認定者ということで、訂正さ

せていただきたいと思う。

- 5 地域格差についてであるが、まずこのプラチナキッズ、ジュニアについては、全ての県内の小学校に周知をさせていただき、そこから手を挙げていただいた子に対して、スクリーニングをして、そして認定をしている。まず、応募の段階では、地域間格差が生じないように、配慮させていただき、そして支援についても、各競技団体が1か所ではなく、近くに、その子供たちの近くに行き行ってやるような、そういう取組をさせて、一部させていただいているので、そういうところで、地域間格差が生じないような形でやらせていただいている。
- 6 まず、県が行っている女性活躍推進の取組が、女子サッカーのWEリーグの振興という形になっている。この県内3チームを盛り上げていくために、埼玉ダービーで知事杯を実施している。まず、課題であるが、やはりこの県内WEリーグの試合観戦数は、まだまだ伸び悩んでいて、実際のWEリーグの目標とする1試合当たりの平均5,000人には、残念ながら及んでいないというところである。そして今後は、これやはり、周知をもっとしっかりするために、観戦・応援促進アプリ、先ほど説明もしたが、「すぽったま!」を、しっかり活用させていただいて、家庭と競技を両立している女性選手のスポーツに取り組む姿勢のインタビューを掲載するなど、WEリーグの機運醸成と女性活躍、そして観客動員の増につなげていきたいというふうに思っている。そして、成果についてであるが、WEリーグのこの機運醸成の関係で、親子サッカー等々の体験教室をやっている。そのために、県内の女子小学生の県内競技者が、令和3年度は941人だったものが、令和4年では995人、令和5年度には1,029人と増加している。このように女子のサッカーに取り組む形も増えていくことによって、WEリーグの機運醸成にもつながっているかなというふうに考えている。
- 7 パラスポーツの普及、裾野拡大には、委員がおっしゃったとおり、あらゆる機会を活用して体験機会の拡充を図ることが必要というのは、正におっしゃるとおりである。このため、県ではまず、ふれあいピック等の県の大イベント等を通じて、パラスポーツ、デフスポーツに触れ合う機会をまずつくっている。あわせて、特別支援学校、それから一般の学校に体験会を実施をさせていただき、具体的に子供たちがパラスポーツに触れる機会も提供をさせていただいているところである。今後も引き続き、このように、体験機会の拡充をしっかりやっていきたいというふうに考えているので、よろしく願いしたいというふうに考えている。
- 8 まず、現状と課題であるが、まず、ボランティアについては、やはり現状としては、参加者数が横ばいという状況であり、必ずしもボランティアの数が増えているという状況にはない。それはなぜかという、我々の方で分析しているのが、まず、ボランティアに参加いただいている方が高齢化していること。そして、またそのボランティアに参加していただいている方が固定化している、なかなか新しい方々が入ってこないという状況になっている。そのため、我々としては、スポーツボランティアの登録制度、登録バンクを設けていて、それへの登録について呼び掛けを常時行っている。そちらの方をまず、拡充、継続する取組を行わせていただき、これはボランティア制度がしっかり継続できるように、ボランティア制度の方をしっかりと運営をしていきたいというふうに考えている。

#### 鈴木（ま）委員

先ほどのeスポーツであったり、アスリート発掘・育成・強化、それからWEリーグ、パラスポーツ、デフスポーツ、ボランティアの参加促進全てにおいてであるが、これ、そ

それぞれの取組についての成果指標などを基に進捗を管理する仕組みになっているかどうか。また、指標があれば主な指標についてもお聞かせいただきたい。

### スポーツ振興課長

まず、各取組においては、目標を設けていて、それに関しての、まず、PDCAを図ってやっている。それに基づいて、次年度以降の施策の改善等についてやらさせているので、それでは、きちんとそういう形で進捗を管理するとさせていただいている。

### 柿沼委員

- 1 スポーツに親しめる機会の提供として、スポーツフェスティバルについて多くの県民に参加させていただくことが望まれる。多くの県民に参加してもらうためには、効果的な周知が必要だと思うが、具体的にどのような手段を活用しているのか。例えば、地域の新聞やSNS、自治体の広報紙、どのような媒体を、方法を活用しているのか教えていただきたい。また、周知活動を行う際に、特に工夫している点などがあればお聞かせいただきたい。
- 2 県内各地から参加していただくためには、開催地域を限定しない方がいいと思っている。県内どの地域でも平等に参加できるよう配慮が必要だというふうに思うが、具体的にどのような基準やプロセスで開催地を決めているのか。例えば、地域ごとのアクセスのしやすさであったりとか、施設の規模などが考慮されているのか、あるいは地域間の公平性を確保するためにローテーションとか、方式を採用しているのかなど開催地の選定はどのように行っているのか確認させていただきたい。
- 3 スポーツに関する情報発信の強化のところであるが、このスポーツの観戦や応援を促進するために先ほども答弁の中にもあったが、スマートフォンアプリの「すぽったま！」を作成したということで、これを活用していくということであったが、この発信強化による観戦者の増加であったりとか、県内スポーツチームの選手の認知度向上など、作成した狙いについて具体的にどのような目標を掲げているのか教えていただきたい。また、今後「すぽったま！」をどのように活用していく予定なのか。例えば、アプリ内で試合速報とか選手の情報発信したりとか、応援イベント割引情報あるいは観戦者とスポーツチームをつなぐ機能など、具体的な活用計画があればお聞かせいただきたい。
- 4 効果の測定や改善について、アプリ導入後の効果はどのように測定していくのか。ダウンロード数や利用頻度、観戦者数の増加など、その指標、成果を判断し、今後改善につなげていく予定なのかお聞かせいただきたい。
- 5 3ページ目になるが、オンラインポッチャという新たなパラスポーツが生まれたというふうに聞いているが、県としてどのように捉えて振興していくのか。また、2月に上尾で開催される第5回埼玉県ポッチャ交流大会本大会でもオンラインポッチャを取り入れることは検討しているのかどうか、お聞かせいただきたい。

### スポーツ振興課長

- 1 まず、スポーツフェスティバルについては、ポスター等を県内の全市町村に配布をさせていただくほか、SNSへの投稿やホームページへの掲載など、幅広く掲載をさせていただいている。そして、周知活動に伴う際の主な工夫であるが、特に、公共交通機関やショッピングモール、それから県営公園などにもポスターも配布させていただいた。そして、特に開催地区内の小学校全てに、チラシを配布して参加の方を促させていただいたところである。

- 2 まず、開催地域については、委員おっしゃるとおり、県内それぞれの方からアクセスしやすいような形でやることが重要かというふうに考える。そのため、スポーツフェスティバルのような大規模な、特に、雨が降ったりとかいうときに対応できなくなってしまふようなものについては、熊谷スポーツ文化公園などに開催地は限られてくるが、その他の卓球ドリームフェスタとか、それからあと個別のスポーツイベントについては、地域バランスを考慮している。具体的には、過去のどこの時点で開催したかというのを勘案して、それが重ならないような形でやらさせていただいている。
- 3 まず、「すぽったま！」の作成の狙いであるが、こちらはやはり県内には先ほど申し上げたトップチームやその活動となっているスタジアム等が多くあるので、スポーツ資源が豊富であるという状況である。この豊富な資源を一元的に発信をさせていただき、県民の認知度を高め、興味関心を喚起することで、県民の皆様は特定のスポーツだけでなく、ふだんあまり観戦しないスポーツにも観戦いただくことが狙いである。現在は、県内20チームに参加をしていただいて、最新のニュースや試合日程、お得なチケット等を配信しているところである。具体的には、どのような目標を掲げているかというところであるが、やはりまず、この「すぽったま！」、県民の皆様はしっかり認知をしていただく、また見ていただく、活用していただくというところが重要かと考えているので、基本的には、10月の末にオープンしたので、1年程度で、約県民の1%の70,000人程度の方々に、ユニークユーザーとしてしっかり御活用いただきたいという目標を掲げている。また今後、「すぽったま！」の活用についてであるが、まず、この「すぽったま！」については、スタートが非常によくなった。基本的には、10月末から始めて、約40,000のユニークユーザー70,000の目標のうち40,000がバーツとスタートダッシュをしたところである。この勢いを、また来年も続くように、しっかり仕掛けをしていきたいと考えているが、特に20チーム、参加していただいているチームがあるが、まだいくつか、お声掛けをすれば入っていただけるようなチームもあるので、まずチーム数を増やしていきたいということと、そして、アプリを通じて観戦に訪れた方々を、せっかく来ていただいたら、スタジアム周辺の飲食店とか、それからあと観光地など、そういうものの魅力も発信できるようなそういう仕掛けも考えていきたいというふうに考えている。
- 4 まず、先ほど申し上げたとおり、まだしっかりユニークユーザー数を、追いかけていきたいと、利用者数を増やすということをしっかり追いかけていきたいというふうに考えている。その上で、このページが、どこがよく活用されているのかということ、ページのビューをしっかり閲覧を踏まえて、どこに県民の興味が置かれているのか、そしてどこが少し使われていないのかというのを分析して、しっかりこの「すぽったま！」の方を改善をしていきたいというふうに考えている。
- 5 まず、オンラインポッチャについては、正に県としても進めているポッチャが、もっと多くの方に、重度の身障者の方にもやっていただけるというものである。県としても、しっかり進めてまいりたいというふうに考えている。そして、2月の15日のポッチャ大会については、またこのオンラインポッチャを取り扱っている事業者等々と今後連絡をとって、確認しながら、御参加いただけるかどうかは、しっかり検討してまいりたいというふうに思っている。

## 柿沼委員

- 1 「すぽったま！」の情報発信に力を入れていくということで、ユニークユーザーを増やしていくということであったが、年で、1年で1%の70,000人が目標で今40,

000人が登録ということであるが、ちょっと、もうちょっと何か高い目標を持ってもいいのではないかなという。700万人以上いるわけだから、その辺どう考えているのか。例えば有名インフルエンサーを使ったりすれば、一気に注目度も上がったと思うがその辺の考え方、教えていただきたい。

- 2 オンラインポッチャというのは、いろんな方ができるという情報を発信、強くしていくということであったが、重度の方もできるということを進めているということでオンラインポッチャ、ポッチャでなくオンラインポッチャはもっと強力的に進めていくのかどうか。
- 3 2月のここに行われるやつで、事業者と連絡を取って検討するということは、今のところは、参加のこと、参加するということではなく検討段階で、今後はオンラインポッチャも入れていく考えがあるのかどうか、教えていただきたい。

### スポーツ振興課長

- 1 70,000人では少ないという指摘である。確かに、まず最初の目標として70,000人で、これだけスタートダッシュがいいという状況にあったので、70,000人を超えるよう、しっかり頑張ってもらいたいというふうに思っている。
- 2 まず、これを今後も県としてポッチャを当然進めているところである。オンラインもちろん強力的に進めてもらいたいと思っている。
- 3 そして2月の方も、事業者の方の、例えば、我々の方としては、いろんな参加をしていただきたいというふうにももちろん考えているし、今後も御活用していきたいと考えているが、ちょっとピンポイントな日程等があって、事業者の方の御都合等もあるので、その辺のところのマッチングをしっかりとやるように頑張っていきたいというふうに考えている。

### 金野委員

- 1 パラスポーツの普及、裾野拡大について、パリで開かれたパラリンピックのゴールボール競技において、埼玉県立特別支援学校の塙保己一学園の卒業生が、金メダルの受賞や6位入賞をされた。選手の皆さんは塙保己一学園の体育館で練習を重ねたそうで、今回塙保己一学園からパラリンピックの金メダリストが生まれたように、県内の特別支援学校の体育館には大きな可能性が秘められていると感じている。先日会派で視察もさせていただいたが、雨漏りがひどく、コーンで注意喚起をされていた。ただ、目の不自由な生徒はそのコーンが見えないので、先生方がその都度拭いているのが印象的である。塙保己一学園に限らず、ほかの県立特別支援学校の体育館も同じような環境にあることは想像にかたくない。パラスポーツの普及、障害に応じたスポーツの機会の創出という意味でも、県立特別支援学校の体育館の整備は重要だと考えるが、教育委員会と連携はどのように行っているのかお伺いする。
- 2 子供のボール投げについてお伺いする。令和5年度全国体力運動能力、運動習慣等調査などによれば、埼玉県は令和5年度全国体力運動能力、運動調査の中で、特にボール投げについて、平成21年度から13年間連続して男女ともに全国平均を下回っている。ボール遊びができる場所が少ないという課題は、皆様御承知のとおりだと思うが、この点についても、行政課題として取り組む必要があると感じている。本計画の中で、課題として明記はされていないが、この課題についてどのように課題と捉え、改善に向けて取り組んでいるのかお伺いする。

## スポーツ振興課長

- 1 特別支援学校の体育館の整備については、正に委員もおっしゃられたとおり、教育委員会の整備が教育委員会の所管である。ただ、県としても、先ほど委員からもお話があったように、特別支援学校の中には、正にパラリンピアン等の卵等々がいることは十分考えられる。それらを支援する仕組みを我々としても設けてプラチナエースとして整えている。このような施策を続けさせていただくことによって、教育局としっかり連携をして、特別支援学校の生徒たちがしっかりスポーツに取り組めるような環境をつくっていただくよう、教育委員会と共にしっかりやっていきたいというふうに考えている。
- 2 ボール投げについては、正に委員がおっしゃったとおり、年々下がってきている状況だというふうに考えている。そして、県の方で調べたところによると、やはり県内の公立学校の屋外運動場について、施設開放されている数や割合は年々減ってきているという状況である。実際、私も少年野球の監督等で指導者を10年やってきた。その中で、実際に私も感じたところであるが、練習場所の確保が非常に厳しかったことがある。ただ、私の場合は幸いなことに小学校を土曜日借りることができたので、ありがたいというふうに考えているが、実際にこのように、子供たちが練習する場所等をしっかり市町村の学校等が、体育施設開放の現状など課題をしっかりと我々の方で聞き取って、その状況を、教育委員会等と共有するなどして、スポーツの場がより確保できるよう努めてまいりたいというふうに考えている。そして、我々としては、先ほども説明させていただいた、スポーツフェスティバル等のスポーツイベントで、しっかりボール投げ等についても、楽しさを味わっていただけるような体験をしていただき、していただけるような機会をつくっていききたいというふうに考えている。

## 金野委員

- 1 パラリンピアン等の卵を周知する仕組みとあったが、やはり今は教育委員会の中だけで完結しているような気がしており、私が申し上げたいのがこの県全体として、パラリンピアン等を特別支援学校の子供たちがパラリンピアンとしてなるということを、執行部側としても応援をしてはどうかということなので、執行部側として独自に周知する仕組みもあつたら、もう少し詳しくお聞かせいただきたい。
- 2 ボールについても、やはり小学校を借りるとか学校公開に限定されているので、それももちろん大切だと思うが、むしろその県、市町村の事情が大きいと思うが、そういった教育だけではないところ、町の整備とか公共施設の整備とか、そういったところで執行部側としてできることを考えてみてはどうかと思うが、いかがか。

## スポーツ振興課長

- 1 まず、特別支援学校の卵については、我々としても、教育の中だけということではなく、そういう方々を対象とした、障害者アスリートの発掘、育成するシステムとして、プラチナエースとして整えている。そして、当然のことながら特別支援学校の方々も対象になっているので、その体験会や測定会に御参加をいただいているし、そして特別支援学校、そしてその他についても、児童、生徒保護者へチラシを配布するなど、しっかり周知を努めてまいつているところである。今後もこのプラチナエース、そしてそれを成長した方々をプラチナアスリートとして、お迎えすることができたら、しっかりその方々を支援をさせていただいて、支援の結果等をしっかりと県民に周知をしてまいりたいというふうに考えている。
- 2 教育だけではなく、公共施設等にも整備をとというふうなお話である。県としても、こ

のスポーツ推進計画の中でも、スポーツのできる環境の整備について入っているの、しっかり、市町村等と課題の共有を通して、公共施設等にスポーツができるよう努めてまいりたいというふうに考えている。

### 泉津井委員

- 1 私の方からまず、eスポーツの普及についてであるが、令和6年3月に熊谷とかで行われたとおっしゃっていたが、まず参加者の年齢層、本当に幅広い方々がいらっしやったださったのかが気になって、年齢層をお伺いさせていただく。
- 2 また、先ほどちょっと入間市を挙げていただいたが、入間市で本当にすごい頑張っていて、私も自治会の集まりでeスポーツと一緒に、自治会の皆さんでやりとかしたが、そのときに頂いた声が、孫とかやりたいんだけど、まずはこれをどうやって自分でやったらいいか分からないというふうにおじいちゃんもおっしゃっていて、確かになと思って。なので御高齢の方もおうちでできるようなそういう何かセッティングの仕方というのはちょっとなかなか難しいと思うが、何かそういうやり方とかから教えてくださるような、イベントとかをもしやっただけたらと思うが、いかがか。
- 3 あとWEリーグに関して、女性の活躍というところであるが、私が小さいときとか結構ママさんバレーとかもいろいろあったと思うが、サッカー以外にもほかのスポーツにおける女性活躍の取組などあったらいいかなと思うが、そちらはいかがか。
- 4 最後になるが、この前入間にわざわざ県の職員さんがSDGsの取組について説明に来ていただいた。そういった取組本当ありがとうございます。その際に、SキューブというSDGsのアプリも紹介いただき、そのときにはSキューブはアプリという形をとっていたが、今回はWEBアプリに「すぼったま！」なっていると思う。例えばアプリだと、スマホのアプリとか例えばインストール数とかで件数とか分かると思うが、WEBアプリにされた理由をお伺いしたいということと、例えばWEBアプリに、今40,000ぐらい登録があるとおっしゃっていただいていたが、私ちょっと無知で恐縮だが、そのWEBアプリの登録数というのはどんな形でカウントされているかというのをちょっともしお教えていただけたらと思う。

### スポーツ振興課長

- 1 まず年齢層は、やはりショッピングモールで開催したということもあって、親子や祖父母、親子供の3世代家族などのファミリー世帯での御来場者が多い状況であった。
- 2 今回やった体験コーナーの中で、実際に体験する台にスタッフがついて、もう正にこの、最初からのやり方始め方、それから実際の操作方法等を丁寧に御説明させていただいた。具体的には、先ほど申したとおり、祖父母の方とお孫さんが、実際、一緒にぷよぷよを、実際に楽しんでいるというようなところも見られたので、そういう意味では、そのような形で工夫ができたかなというふうに思っている。
- 3 まず県では、県内では、先ほど申し上げたとおり、多くのプロ・トップチームが活動しているので、それらのチーム、特にサッカーのWEリーグやバレーボールのSVリーグなど、女性チームも非常に多い。この女性チームも多い強みを生かして、女性アスリート話題を集めて発信し、多くの県民に知ってもらうことで、女性活躍の推進をさせていただいている。具体的には、埼玉上尾メディックスと、親子の試合観戦やバレーボールの体験教室を開催をさせていただいて、女性スポーツに触れる機会の御提供をさせていただくとともに、女性スポーツへの関心を高めた次第である。また、知事が、県内

女性スポーツの選手のパーソナリティにスポットを当てて、てい談を実施している。具体的には、先ほど申し上げた上尾メディックスの岩崎こよみ選手、それから山中宏予選手と、知事公館においてテレビ埼玉の番組として収録を放映をさせていただいた。それぞれの選手が競技に懸ける思いや、アスリートと育児の両立、チームメイトとのコミュニケーションなど、選手の知られざる一面を紹介をさせていただき、県民の興味・関心を喚起させていただいたというふうに考えている。

- 4 まず、WEBアプリにした理由が、まずダウンロードするタイプのアプリに比べて、非常に開発時間やコストが低いと、抑えられるというところがある。そして、あとはやっぱり私も実際にこうやっていて思うが、ダウンロードする手間というのが、意外に面倒くさいので、ダウンロードするとき面倒くさいってこうやめしてしまうようなこともあるかと思うが、このWEBアプリはダウンロードする必要がないので、それを一度開いてもらえれば、このホーム画面に登録するだけで、今後も使えるという形になるので、このような方法を採択をしたところである。次に40,000ユニークユーザーのカウンターの仕方であるが、こちらは実際にスマホをお使いになってる方が、例えばこの方が、今回だけじゃなくて2回も3回も、何回も何回も使ったとしても、それは一人としてカウントしている。なので、実際に、例えば、10,000人の方が、4回ずつやったら、延べでやると40,000になってしまうが、このユニークユーザー数というのは、一人の人が何回やっても一人ずつ数えているので、今回40,000というのは、実際に40,000人の方が御利用いただいているというふうにカウントしている。

## 千葉委員

- 1 先ほど、鈴木委員の方から、アスリートの発掘・育成・強化について、成果についてと地域の格差の防止についての質問があった。これ、私これを見て逆に発掘と育成と強化で、具体的にどのような活動をしているのかというのが、ちょっと分かりづらかったのでそれについて1点説明していただきたいと思う。
- 2 屋内50m水泳場の整備の現状というのは、どのようになっているのか。また、完成後の活用方針についてどのように考えているのか。

## スポーツ振興課長

- 1 まず、プラチナキッズについては、運動能力に優れた素質を持つ小学校4年生を対象に発掘を行い、認定者に対し様々な競技体験活動を通じて、自身の競技の選択の幅を広げる競技体験プログラムというものを実施している。また、スポーツ科学の知見を活用したアスリート教育、そして傷害予防、栄養学習、体力測定などを通じて、身体能力を高める育成プログラムを実施して、支援体制を行っているところである。続いて、プラチナジュニアについては、これは、競技に適した能力を持つ県内の小学6年生、中学1年生を対象に同じく発掘をして、そしてその認定者に対しては、今度は競技団体主導の下でしっかり質の高いトレーニングを受ける、競技別専門プログラムを実施している。そして、そのほかプラチナキッズ同様に、スポーツ科学の知見に基づいたサポート、先ほど申し上げたアスリート教育や障害予防なども併せて支援をしていて、競技力とそして身体能力を高める形で支援をさせていただいている。そして、プラチナエースについては、この障害のある方が競技に触れる機会がまず少ないということがあるので、まずしっかり体験会、測定会を通じて、自分に合った競技をまず見つけていただくというところに主眼を今回置いている。そして見つけていただいた方を、競技団体につないで、しっかり競技団体が競技を続けられるような、そういう仕組みを構築していくという形

である。そして、まず、強化については、これ正にプラチナアスリートと申し、健常者アスリート30名、そして障害者アスリート20名認定させていただき、先ほど申し上げた正に身体能力測定のほか、アスリートとしてのケアのマッサージの仕方とか、運動指導、そしてスポーツの勝敗に非常に関係するメンタルの指導等についてもしっかりと、個別サポートを専門家によりさせていただいているところである。

## スポーツ施設整備推進幹

2 まず、整備の現状である。そもそも本施設は、日本水泳連盟公認の県内初の公営屋内50m水泳場として、アスリートの競技力向上を図るとともに、誰もが水に親しむ環境を創出し、県民の健康増進やスポーツ実施率の向上を図ることを目的としたもので、川口の神根運動場内に整備を予定しているものである。50mメインプールのほか、25mのサブプール、それから飛込プール、合わせて三つのプールを備えて、1年を通して天候に左右されず誰もが利用できる施設とする予定である。整備の現状であるが、昨年度、令和5年度にPFI方式による入札を実施した。選定した事業者と令和6年3月27日に契約を締結して、令和9年7月の開業に向けて、今年度はまず設計業務を進めているところである。本施設は、川口市が整備を進める神根運動場と一体的な整備を行うこととしており、事業者だけではなく、市も含めた設計内容の協議を行っているところである。今年度中に設計業務を終了させ、来年度早々には建設工事に取りかかる予定である。将来的な活用方針であるが、四つの特徴的な活用を考えている。まず一つ目が、50mのメインプールゾーンと25mのサブプールゾーン、これを分けて、メインプールでの大会開催時でもサブプール部分については分かれているので、一般利用として開放するなど、県民の利用機会を多く提供するというような取組、これが一つ目。二つ目としては、県民のスポーツ実施や健康づくりのきっかけとするため、運営事業者にも、様々な水泳教室を開催していただくというところ。それから三つ目として、障害のある方も利用しやすいようバリアフリーに配慮した、入水補助用具などの設備や備品を設けて、どなたでも使えるようなプールにしていくということ。それから最後四つ目であるが、災害時には川口の隣接する北スポーツセンターも整備予定である。こういった川口市の施設と連携した避難施設の機能を担うなどの機能を持った施設としての運営を行っていきたいというふうに考えている。このように、本施設を含めてこの川口市の神根運動場一帯が、アスリートだけでなく多くの県民が訪れる新たなスポーツの拠点となるよう、県市一丸となって整備を進めていきたいというふうに考えている。

## 千葉委員

先ほどアスリートの発掘と育成、強化ということでプラチナジュニア、プラチナエース、プラチナアスリートというふうな説明があったが、これは、認定に関しては記録会とかを通じてやるのは分かるが、誰がどのように認定をするのか、それだけ1点だけ教えていただきたい。

## スポーツ振興課長

まず、このプラチナ事業に御協力いただいている競技団体、そしてそれに携わる専門家等が判定をさせていただいているところである。

## 千葉委員

これは協議会みたいなその人たちが集まって、その選定委員会みたいなのがあってやるの

か、あるいはその競技団体の方からも推挙みたいな形で決められているのか、その点だけお願いします。

### スポーツ振興課長

拙い説明すみません。まず、このスポーツ協会の中のスポーツ推進委員という組織の中で決めさせていただいているところである。

### 松下委員

スポーツ推進計画の基本目標の「1 全ての県民にスポーツを」という点において、課題となっている、スポーツの実施率の低い働く世代及び子育て世代で、その中でも性別的には女性が実施率が低いとなっている。こちらに関しての県の具体的な取組としては日常生活の中で気軽に取り組むことができるスポーツ活動であったり、参加しやすいような環境整備、それとまた、親子で楽しめるようなそういったスポーツ教室なんかを開催を促進していくということが、計画の中にあるけれども、もう少し具体的に実績等も含めて教えていただければと思う。

### スポーツ振興課長

まず、スポーツ実施率について、スポーツ推進計画策定時には、実は男性より女性の方が低かったが、現時点では女性の方が男性より高くなっているという実態はある。そして年齢別では、特に60代以上がスポーツ実施率が高く、働く世代、子育て世代である30代と40歳代は低い状況にあるというのが現状である。このように、仕事や家事育児で忙しい、スポーツをする時間がない女性や働く世代、子育て世代でも参加しやすいように、身近で気軽に様々なスポーツの機会を提供することが必要というのは、正に委員おっしゃるとおりである。具体的な取組として、先ほど来申し上げている、スポーツフェスティバルの実施やそれからあと、プロ・トップチームとの連携による親子スポーツ教室、そして大型商業施設に忙しい人でも買物ついでに行ってもらえるように、大型商業施設に会場をいただいで、スポーツを体験していただく機会など、そういうものを県としては進めていて、身近で気軽にスポーツに触れる機会の提供に努めてまいりたいというふうに思っている。

### 松下委員

- 1 そういったスポーツフェスティバルとかそういった、スポーツクラブとかスポーツチームと共同で、スポーツ教室親子で楽しめるというのを実施しておられるということも今分かったが、そこに関して、県内で格差がやっぱり生じないようにというところの配慮がなされているのか。
- 2 こちらの計画の中にも書いてある、日常生活の中で、手軽に取り組むことができるスポーツ活動とある。これは具体的にどのようなことを指しているのかということをお教えいただければと思う。というのは、特に子育て中だとやっぱりお子さんを通してスポーツに親しむということがあったというのは容易に想像できるが、自身のスポーツというのがなかなか時間がとれない中とはいえ、そういったものをやっぱりずっと生涯スポーツ、親しんでいく必要があるというふうに思うので、その辺り教えていただければと思う。

## スポーツ振興課長

- 1 まず、スポーツイベントについては、先ほど質問にもあった形で、まず地域的な過去にあったものを把握して、そこは重ならないような形で地域バランスを持ってやらせていただいているということで、まず、地域格差がつかないような、ならないような形でやらせていただいている。そして、プロ・トップチームと連携したこの親子スポーツ教室についても、これは各チームに御協力いただく形で、各チームの所在場所が、例えばアルディージャであったら大宮、それからあと、ちふれであったら熊谷という形で、ちょうど県内バランスがよく配置されている面もあるので、そういう意味では地域格差がないような状況になっているというふうに考えている。
- 2 日常生活の中であるが、今回やらせていただいたスポーツフェスティバルの中で、特にスポーツジムの講師の方においでいただき、実際に家の中でも気軽にできる、そういうトレーニングの方法を御紹介して、そして実際に体験をしていただいている。そういう意味で、日常的なものについても周知それから体験をしていただく機会をつくれているかなというふうに考えている。

## 委員長

そのままどうぞ。

## スポーツ振興課長

申し訳ございません。千葉委員の回答について、私スポーツ協会のスポーツ推進委員会の中で、というふうに決まっているというふうに申し上げたが、そうではなく、スポーツ、有識者が集まっているアスリート選考委員会というところで、まずは選考した上で、最終的にスポーツ協会の関係者、大変失礼しました、今言ったアスリート選考委員会で最終的に決定するというところである。誠に申し訳ありません。

## 小川委員

先ほど千葉委員の質問から出た、スポーツ協会とのつながりである。埼玉県のスポート協会は、来年100周年を迎えると思う。各競技団体が、一番末端で県民のスポートの振興に当たっていると思うが、県の行政として、埼玉県のスポート協会、そして各市町村のスポート協会、そして各競技団体、どのようなつながりでどのような支援、そしてどのような指導が県の意向が伝わるようになっているのか。ざっくりな質問であるが、高野課長よろしく願います。

## スポーツ振興課長

まず、県スポーツ協会と県をつながり、関係であるが、まず、県スポーツ協会が実際に運営するに当たっての運営費等の補助を、まず県の方でさせていただいている。そして、各市のスポーツ協会への指導については、県スポーツ協会を通じて県の支援をしているところである。そして、各競技団体においても同様に、スポーツ協会を通じて県の補助等が入っている形になっている。そして、県の指導という形についても、これは県スポーツ協会と連携を密にさせていただいている。そういう意味では、県のスポーツ振興に関する意向をスポーツ協会がしっかり受け止めて、それを基に各市のスポーツ協会、競技団体を指導する形になっている。なので、県としてもそのような形で、県の考え方は末端まで行っているというふうに考えている。

## 小川委員

- 1 先ほどから皆さん話題に出ているが、各スポーツ協会、東西南北、地域あると思うけど、地域格差がないように負担金、負担金というか、何ていうのか、補助金が行き届いているのか。それは人口割なのか、競技人数割なのか。
- 2 あとは、先ほどちょっと話題に出たが、今年中学校の駅伝で鶴ヶ島が全国で優勝されたそう。そういった地域的に強いスポーツってあると思う。東西南北でそういったスポーツに重点的に力が注ぐ、県の力が注げるような仕組みというのもあっていいかなと思うが、その点いかがか。

## スポーツ振興課長

- 1 まず、地域格差がないようにということで、まず先ほど申し上げた、各市のスポーツ協会等にいく補助金については、小川委員からお話があり、人口割がベースでやらせていただいている。
- 2 そして各競技団体への支援については、確かに競技人口等もあるが、実際には、この競技団体の実績、例えば国民スポーツ大会でよい成績を上げているとか、それに向けて取組を強化しているとかというところについても加味した上での補助金の配布という形になっているので、そういう意味では、メリハリがついた形になっているのかなあというふうに考えている。

## 鈴木（正）委員

- 1 観戦・応援促進アプリ「すぽったま！」についてであるが、「すぽったま！」は今のところホームページ見ると、高校野球だとか高校サッカー、高校ラグビー、バレー、高校バレーボールなどは、高校国体もそうなのだが、情報としては入っていない。こちらの学生スポーツも県民が非常に観戦して人気のスポーツだと思うが、こちらの学生スポーツを入れなかった理由についてお尋ねをする。
- 2 次に、「すぽったま！」の閲覧状況は10月に公開されたということなので、現在のところどのように把握しているのかお尋ねする。
- 3 「すぽったま！」の開設によって、県内各競技チームのチケット販売数などは上がってきている兆しというものはあるのかどうか。また何か、数値的目標はあるのかお尋ねをする。
- 4 また、「すぽったま！」を見ると、県内競技場の場合の無料観戦などの特典の掲載があるけれども、今後埼玉にあるチームが、県外エリアのアウェイのところで戦っているところもあると思うが、そちらに行くと当然地元の方々の応援が多いので、そういったところまで応援チケット、特典の拡大をしていく考えはあるのかお尋ねをする。
- 5 続いて、アスリートの競技力向上支援について、プラチナキッズ、プラチナジュニア、プラチナエースの発掘人数、認定数について先ほどの議論で、健常者で30名、障害者で20名ということでお聞きしたが、様々なスポーツ競技がある中で30名とかいうと、もう野球だサッカーだ、ラグビーだ、陸上だなんて入れちゃったらもうあつという間の人数になってしまうと思うが、この人数に限定したというか、その理由について、その根拠をそれについてお尋ねをする。また、今後人数を拡大していく考えはないのかお尋ねする。
- 6 それからプラチナジュニアやプラチナエースに認定された子は、競技団体と、認定を通じて育成強化されるとの先ほどの議論であったが、これは全員クラブチームなどに所属していると考えていいのか。また、所属チームなどをクラブチームをあっせんしてい

- るのかお尋ねをする。また、小学校4年生対応のプラチナキッズは、競技団体には入っていない子供もいるのか。競技団体を通じてのアドバイスや強化支援の中身は具体的にどのようなものがあるのか。これはプラチナジュニア、プラチナエース。お尋ねをする。
- 7 また最後に、認定された子がその後、思ったほどの成績が出ないことや練習が辛くてやめたいなどの相談に関して、相談をする窓口などが存在するのか、相談体制はどうなっているのか、お尋ねをする。

### スポーツ振興課長

- 1 まず、「すぽったま！」については、まず目的として、県内で行われるプロ・トップスポーツチームの試合観戦の促進というのが目的である。そのため、今回参加対象としては、プロリーグや各競技の国内トップを決めるリーグに所属しているチームという形でやらせていただいた。ただ、委員おっしゃるとおり、学生スポーツも人気があるということであるので、こちらはちょっと「すぽったま！」ではなくて、例えば県のXとか、そういうところで周知等をさせていただくことも検討させていただければと思っています。
- 2 続いて、現在の「すぽったま！」の閲覧状況であるが、ユニークユーザー数でカウントをさせていただいている。ユニークユーザー数については、直近の数字で約40,000という形でカウントさせていただいている。
- 3 チケットの数値的な伸びというところであるが、まず各チームから「すぽったま！」での募集をした形で、非常に反響が大きいということで、驚きの声が上がっている。チケットの伸びについては、この「すぽったま！」始まったばかりというところもあるので、ちょっとチームの方には具体的に聞いてないが、今後しっかりチームの方に確認をしてまいりたい。
- 4 まず、このチケットのプレゼントについては、我々としても確かに、アウェイの方に行っていただく形をやりたいのは山々だが、このチケットについてはホームチームがやるものであり、今回、我々御協力いただいているのは、県内チームという形になっているので、恐縮であるがちょっとアウェイのチケットの無料プレゼントは厳しい状況である。御理解いただければと思う。

### 鈴木（正）委員

できないということはないよね。情報だけやればいい、情報だけでも。チケット関係情報だけとか情報だけでも。何でも無料にしろと言ってないので。

### スポーツ振興課長

チケット情報を、アウェイについてもリーグのところをクリックしていただくと、一応試合のやつも出てきている。申し訳ありません、御理解いただければと思う。

### スポーツ振興課長

- 5 このプラチナアスリートについては、やはりアスリートの活動支援をするには、予算が必要であり、なかなか獲得する予算の都合上、この人数でやらせていただいているところである。ただ、来年度は何とか拡充を図りたいと、特にデファアスリートについては拡充を図りたいというふうを考えているので、そこについてしっかりやっていきたいというふうを考えている。
- 6 大変恐縮であるが、クラブチームに入っているかどうかというのは、現在調査把握し

ていない。今後、このプラチナのキッズに認定している子については、しっかり委員のお話を踏まえて、調査、把握をしてみたいというふうに思っている。

- 7 続いて、相談体制。子供たちがもうやめたいというようなお話への相談体制であるが、スポーツ協会の中に、アスリートライフスタイル支援ということで、担当窓口を設けている。このため、ここの窓口でアスリートそしてキッズ、ジュニアの方々もそういうことがあれば、そちらの方に御紹介してつなぐという形でさせていただいている。